

令和3年度

# 病虫害発生予察情報

# 第21号

## 9月月報

北海道病虫害防除所 令和3年(2021年)10月14日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

### I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

ー日本海側は高気圧に覆われやすく少雨・記録的多照。18日は太平洋側で記録的大雨。ー

9月は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わったが、期間の前半を中心に高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かった。このため、日本海側の月間日照時間の平年比は、1946年の統計開始以降、9月として多い方から第1位の記録となった。一方、低気圧の通過や上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となって雨の降った日もあった。特に、18日は前線を伴った低気圧の通過により、太平洋側とオホーツク海側を中心に雨が降り、えりも岬で日降水量198.5mmを観測するなど記録的な大雨となった所があった。気温は、上旬と中旬は北からの冷たい気流の影響で平年より低かったが、下旬は高くなり、月平均気温は平年並だった。降水量は、上旬は平年より少なかったが、下旬は多く、月降水量は少なかった。日照時間は、上旬と中旬は平年よりかなり多く、月間日照時間もかなり多かった。なお、上旬の日本海側の降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、少ない方から第2位の記録となった。

上旬 1日:高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり雨の降った所もあった。2日:高気圧に覆われて晴れた所が多かった。3~5日:高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり雨の降った所もあった。6~7日:高気圧に覆われて全道的に晴れた。8日:低気圧の接近に伴い全道的に曇りで太平洋側では雨の降った所もあった。9日:低気圧の影響で広い範囲で雨が降ったが、日本海側では晴れた所もあった。日降水量は釧路市幸町で60.0mmなど。10日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、雨の降った所もあった。

中旬 11日:はじめ高気圧の張り出しの中で晴れたが、気圧の谷の接近と上空に寒気が流入し大気の状態が不安定となった影響で昼過ぎから雨の降った所があった。12日:前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、日本海側北部では大雨となった所もあった。日降水量は羽幌町焼尻で82.0mmなど。13日:はじめ低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となって昼過ぎからは晴れた所が多かった。14~16日:高気圧に覆われて全道的に晴れたが、16日は昼過ぎから気圧の谷の接近により曇った。17日:気圧の谷と台風第14号からの湿った気流の影響により、太平洋側を中心に雨の降った所があった。18日:前線を伴った低気圧の影響でオホーツク海側と太平洋側を中心に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量はえりも岬で198.5mmなど。19日:高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、太平洋側東部では明け方まで雨の降った所があった。20日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、日本海側では気圧の谷の通過により明け方まで雨の降った所があった。

下旬 21日:高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあったが、気圧の谷の通過により雨の降った所もあった。22日:前線を伴った低気圧の通過により北海道の広い範囲で雨が降った。23日:低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は余市で73.0mmなど。24日:はじめ気圧の谷の中で雨の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた。日降水量は新ひだか町笹山で51.0mmなど。25~27日:高気圧に覆われて全道的に晴れた。28日:高気圧に覆われて晴れた所もあったが、湿った気流により曇った所が多かった。29日:はじめ高気圧の張り出しの中で日本海側とオホーツク海側では晴れたが、前線を伴った低気圧の接近により夜には雨の降った所があった。30日:前線を伴った低気圧の通過により全道的に雨が降った。日降水量は登別市カルルスで110.5mmなど。

気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間・降雪量は比(%))を示す

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	-0.1	並	79	少	124	か多
日本海側10地点平均	+0.1	並	71	少	132	か多
オホーツク海側4地点平均	-0.4	並	82	並	120	多
太平洋側8地点平均	-0.2	並	89	並	117	多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

## II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

### A. 水稲

#### 1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 少

予察田の「きらら397」における穂いもち及び節いもちの発生量は、岩見沢市、北斗市では平年より少なかった。

予察田における水稲の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.4	40.5	-	-	10
	ななつぼし	0.6	57.3	-	-	10
比布町	きらら397	-	65.4	-	64.6	10
	ななつぼし	-	53.1	-	68.7	5
北斗市	きらら397	5.8	43.8	-	52.6	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-:成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稲の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.1	12.7	-	-	10
	ななつぼし	0.1	27.7	-	-	10
比布町	きらら397	-	10.2	-	18.3	10
	ななつぼし	-	6.6	-	15.5	5
北斗市	きらら397	0.8	11.3	-	18.9	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-:成熟期を迎えたため調査終了

#### 2. 紋枯病 発生量 並

予察田における発生量は、岩見沢市では平年よりやや少なく、北斗市では平年並だった。

予察田における水稲の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	12.5	18.2	-	23.8	10
北斗市	きらら397	23.6	25.5	-	18.1	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)-:成熟期を迎えたため調査終了

### 3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町で平年より低かった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町	
本年	平年
20.0	47.3

注) 平年数: 9年

### 4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや多 <7月28日付け注意報第7号>

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より少なかった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、長沼町で平年並、比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや多かった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	15	94.4	3	24.3	1	26.4	2.5	3.9	22.5	0.8	0	3.3
2半旬	41	61.6	5	41.7	13	25.0	2.5	0.8	7.5	1.1	2.5	3.5
3半旬	5	24.3	1	11.9	3	2.1	0	1.0	0	2.8	12.5	2.3
4半旬	5	5.2	2	26.2	3	2.6	2.5	0.6	-	0.7	0	1.1
5半旬	2	0.9	12	0	0	0.2	0	0.2	-	1.9	-	0.4
6半旬	5	3.7	0	0	0	0.1	-	0.2	-	-	-	0
平年数	10		10		10		9		10		10	

注) ー: 収穫期を迎えたため調査終了

## B. 豆類

### 1. べと病(大豆) 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	0	24.0	0	23.5	10

## C. てんさい

### 1. 褐斑病 発生量 やや少

＜7月12日付け注意報第5号＞

予察ほにおける発生量は、長沼町の「あまいぶき」では平年並で、芽室町では平年より少なかった。訓子府町の「ライエン」では平年より少なかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(“弱”)	81.2	70.5	90.0	83.7	96.4	91.8	10
	ライエン(“やや強”)	50.4	54.2	60.8	67.0	69.6	78.2	6
芽室町	あまいぶき(“弱”)	42.0	74.3	52.4	83.1	60.8	93.1	8
	ライエン(“やや強”)	39.2	51.8	43.6	59.4	50.4	73.9	6
	スタウト(“強”)	30.4	53.2	40.4	64.0	46.8	79.0	9
訓子府町	ライエン(“やや強”)	28.8	61.1	37.6	71.6	50.0	80.8	10

### 2. ヨトウガ(第2回) 発生量 並

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、長沼町で平年並、芽室町で平年よりやや高く、訓子府町では平年よりやや低かった。

一般ほにおける9月3半旬の巡回調査によると、被害株率50%以上となった地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	58	54.8	60.0	39.0	35	38.9
2半旬	62	59.4	59.0	43.3	38	42.6
3半旬	63	65.8	60.5	46.4	43	49.5
4半旬	63	68.7	68.5	49.8	45	56.5
5半旬	67	70.3	67.0	54.0	49	60.6
6半旬	69	73.7	68.5	55.7	53	64.1
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	9月3半旬		普及センター	地点数	9月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	南東部	1	0	4.0	網走	本所	9	2.3	8.0
石狩	本所	3	4.3	17.3		清里	6	6.4	14.7
後志	本所	3	3.0	6.7		網走	2	12.0	5.0
胆振	本所	4	4.0	14.5		美幌	5	0.6	0.4
	東胆振	3	8.7	12.0		遠軽	3	26.3	20.7
上川	富良野	3	2.7	6.7	十勝	本所	7	7.3	3.6
	大雪	3	0	0		東部	5	1.4	5.0
	士別	2	0	28.0		東北部	4	22.5	19.5
	名寄	2	7.0	22.0		北部	3	0	0.7
						西部	3	5.3	2.0
						南部	3	2.3	7.3

## D. あぶらな科野菜

### 1. 軟腐病（だいこん） 発生量 並

長沼町の予察ほにおける軟腐病の発生は平年並だった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	0	1.6	2.5	2.9	3.5	3.4	10

### 2. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年並だった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	15.1	14	10.7
2半旬	5	8.4	20	13.1
3半旬	2	14.5	21	14.6
4半旬	9	21.5	16	19.0
5半旬	41	19.0	25	13.1
6半旬	61	20.6	13	16.7
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

### 3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、訓子府町では平年より少なかった。比布町、北斗市、芽室町及び滝川市では平年並だった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	16	19.9	2	3.7	8	4.8	0	0.9	1	2.2	1	0.2
2半旬	6	22.7	1	0.8	4	5.2	0	0.1	0	1.1	0	0
3半旬	16	11.6	0	0.8	2	5.4	0	0.1	0	0.6	0	0
4半旬	6	9.5	8	0.8	5	5.3	2	0	0	0.9	1	0.4
5半旬	11	10.4	3	2.3	6	3.9	2	0.4	0	0.5	0	0
6半旬	4	9.1	6	4.3	4	3.0	1	0.1	0	0.7	0	0.4
平年数	10		5		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	7	8.1	2	12.1
2半旬	9	7.6	1	10.0
3半旬	23	6.6	1	2.0
4半旬	19	6.0	2	4.4
5半旬	38	6.0	0	4.3
6半旬	40	4.3	3	3.0
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

## E. りんご

### 1. 黒星病 発生量 並

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「昂林」及び「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

巡回調査の報告によると、一般園では発生が認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	99.5	59.5	84.5	36.4	10
	ふじ	98.7	82.9	83.5	56.9	4
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	-

注1)長沼町は9月6半旬、余市町は9月第4週のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	2	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

### 2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は平年よりやや多かった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方の感受性品種で発生が認められている。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	10.5	7.8	0.3	0.2	10
	王林(徒長枝)	10.1	5.6	0.2	0.1	10
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	-

注1)長沼町は9月6半旬、余市町(慣行防除)は9月4週目の調査結果

注2) - は調査対象外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	3.0	18.0
留萌	南留萌	1	0	61.3

### 3. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町A及び余市町Bでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、旭川市で平年より多く、岩見沢市で平年よりやや多く、札幌市及び壮瞥町で平年並、七飯町では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシクイガの産卵数およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	158.6	70.2	100	100.0	80.0	28.6	0	15.3	13.6	22.9
2半旬	-	35.4	-	100.0	55.5	26.5	0	6.1	5.4	11.8
3半旬	-	12.1	-	100.0	0.5	6.7	0.3	2.4	0.3	4.9
4半旬	-	2.3	-	100.0	0	0.5	1.4	1.1	1.4	2.7
5半旬	-	-	-	-	0	0.3	0.9	1.3	0.3	0.3
6半旬	-	-	-	-	0	0	0.4	0.8	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 産卵数は100果調査。

注3) -は落果により調査終了。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	4.3	1.4	8.5	7.4	7.1	9.1	5.0	16.4	33	8.0
2半旬	3.0	1.2	8.5	2.9	5.0	5.6	5.9	7.9	2	4.7
3半旬	1.7	0.5	0	0.4	2.9	1.0	5.4	2.9	0	0.5
4半旬	0	0.2	0	0	0	0.6	1.4	1.5	0	0.2
5半旬	0	0	0	0	0	0.2	0.3	1.0	0	0
6半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0
平年数	10		10		10		10		10	

### 4. ハダニ類 発生量 リンゴハダニ：少、ナミハダニ：多

予察園におけるリンゴハダニは、いずれの地点においても発生が認められなかった。ナミハダニは、いずれの地点においても平年より多かった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	5.8	-	0.5	-	0	7	3.0	-	1.0	-	0.3
2半旬	0	0.8	0	0	0	0.4	4	0.2	7	0.8	115	1.2
3半旬	0	1.7	0	0.2	0	0.3	0	0.5	1	0.2	6	2.3
4半旬	0	0.1	-	0	-	3.3	0	0.1	-	0.1	-	0.5
5半旬	0	0.1	1	0.4	0	0	2	0.2	6	0.2	2	0
6半旬	0	0	0	0	0	0.6	0	0	0	0.1	0	1.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生数。

## 5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、いずれの地点においても平年より低かった。予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町A及びBでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市及び札幌市で平年並、増毛町で平年よりやや少なく、石狩市及び七飯町では平年より少なかった。壮警町及び旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	5.2	12.8	-	0.5	-	0.0	27.0	42.9	19.3	133.3	25.0	80.2
2半旬	6.6	15.8	0	0.5	0	0.3	53.5	50.7	39.4	117.3	41.3	87.9
3半旬	8.4	21.0	0	0.7	0	0.3	6.5	39.7	53.6	101.8	43.9	86.4
4半旬	8.0	22.1	-	1.0	-	0.6	8.0	9.8	56.4	67.8	10.7	64.7
5半旬	11.0	29.7	1	0	1	0.5	0	4.1	46.1	38.9	6.1	39.4
6半旬	12.0	32.4	0	0.6	0	0.2	0	1.2	28.7	14.6	3.3	19.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮警町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2.1	3.4	2.5	3.8	0	51.8	0	155	0.7	3.7	0	0.7	112.5	232
2半旬	3.4	3.3	1.5	2.1	0	122.7	0	182	2.9	13.7	0	1.8	218.5	286
3半旬	3.7	4.5	1.0	1.9	4	103.3	0	122	4.3	16.3	0	0.7	146.0	278
4半旬	1.4	1.6	2.0	0.6	2	117.6	0	74	4.3	15.8	0	0.3	143.3	232
5半旬	0.3	0.6	0	0.3	5	50.1	0	32	1.4	10.4	0	0.2	63.3	114
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	19.5	0	9	0.8	6.3	0	0	48.3	46
平年数	10		10		7		10		10		10		10	

## 農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

### ■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。  
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。  
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。  
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

---

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの（総合）振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。